Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-17

研究授業「地域研究Ｂ」：国家間の結合（ＥＵを例に）

岡野，敦

(Citation)
兵庫地理,46:47-48

(Issue Date)
2001-03-31

(Resource Type)
journal article

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/90002435

KOBE UNIVERSITY

研究授業「地域研究Ｂ」
～国家間の結合（ＥＵを例に）～

岡野　敦

１．授業にあたって

米ソの冷戦終了以来、国際社会の性格は大きく変わりつつある。それを反映する近年の事例は数多くあるが、そのような中で世界が注目しているＥＵ（欧州連合）を例として、国家を単元とする授業を展開してみた。研究授業といっても、特別に何かを用意した訳ではなく、普段通りの授業の一コマを見ていただいた。さらに、今回の授業は２時間中の１時間目で完結もしてない。その点を申し訳なく思うが、よそ行きではない普段の授業を見ていただくのも良いかと思い、そのようにさせていただいた。

本校は、「地域研究Ｂ」という科目名で１年生から地理Ｂの学習をスタートしている。ただし週あたり１時間（１単位）、教科書もなく、地図帳と資料集、学習ノートですすめている。したがって、あまり欲張らず交通と通信、国家そして図法や読図の範囲だけにしている。しかし、特にポイントを絞って深く掘り下げ印象づけることもある。今回のＥＵもその一つに位置づけている。たった１単位の授業なのだが、それでも２年生は自然環境の地形と気候の単元からスタートできるので３年生での大きな余裕がもたらされる。

２．地歴科（地域研究Ｂ）学習指導案

①実施クラス

クラス１年３組（男子 16 名、女子 10 名、計 26 名）

②場所

社会科教室

③教材

地図帳「新詳高等地図　初訂版」帝国書院、「地理Ｂ学習ノート」西播磨地理教育研究会

④単元

第１章　現代と地域

第２節　現代世界の国家と国家群

（４）国家間の結合

⑤単元目標

＊国土の位置・特色、国家の領域、国境の意義と機能の理解を通して 様々な国際紛争の具体例を考察させる。

＊国家の主要素を理解し、国家の意義について考えさせる。

＊国家間の結合の具体例によりその目的や結合の難しさを理解させる。

⑥指導計画

（１）世界の独立国

（２）領域から見た現代世界の国家

（１）（２）合わせて２時間

（３）領域をめぐる問題　１時間

（４）国家間の結合　２時間

⑦本時の指導題目

「ＥＵ（欧州連合）」。⑥指導計画の（４）国家間の結合、配当時間２時間のうちの第１時間目にあたる。

⑧本時の指導目標

ＥＵのスタートから現在までの経過を確認し、ＥＵとはどのようなものなのか、その目的や現在の状況を理解させる。

⑨指導過程

第１表を参照のこと。

３．授業を終えて

本校の生徒は、びっくりするほどよく発言

する。授業中や授業終了後の質問も多い。クラスによっても差はあるが、出席簿で指名しなくても、授業中の問いかけに誰かが答える。いつの間にかそれが普通になり、競争になっている面すらある。今後もこの雰囲気を大切にしていきたい。今回の授業でも、授業中の私の問いかけには必ず誰かが答えていた。研究授業ということで生徒達が緊張していたため、普段に比べるとおとなしかったが、それでも無反応に終わった問いかけは無かったように思う。

次時では、ＥＵの組織や統合上の諸問題、マーストリヒト条約からアムステルダム条約への改正の意味等を取り上げる予定である。そして、ＥＵの動きが他の国々や地域にどんな影響を与えるのか、日本にはどのような影響があり、どうしなければならないかを考えさせる予定である。（姫路工業大学附属高）

第１表　指導過程

	学習内容・生徒の活動	留　意　点
導入	前時をふりかえって ・国家とはどのようなものだったのか ・なぜ紛争を起こしやすいのか ・一方で存在する国家間の協力体制 等を確認する	・週１時間の授業なので、必ず前時の内容を確認する
展開	国家間の結合の典型例としてＥＵに着目し、その発足時点からの経過を確認しながら、ＥＵというものを理解させていく。 ・ＥＣＳＣとはどのようなものか ・ＥＥＣやＥＵＲＡＴＯＭへの拡大 ・ＥＣへの統合 ・お手本となったベネルクス関税同盟 ・ＥＦＴＡを結成したイギリスの動き ・加盟国の増加（国名・年代） ・ＥＣ→ＥＵへ（マーストリヒト条約）	・シューマンプランの解説 ・なぜ鉄鋼と石炭なのかを理解させる ・ロレーヌとザールの関係解説 ・ベネルクス３国を質問する ・国名はすべて地図帳で確認させる ・どんな意味をもつことなのか
まとめ　予告	・ユーロの使用開始 ・アムステルダム条約 現在、欧州の１１カ国が既に加盟交渉を始めていたり、または、交渉開始が決定している。そのことが日本や世界の国々に与える影響や統合をめぐるトラブルも存在することに触れ、次時への予告とする。	・ユーロの名称：生徒への質問 ・マーストリヒトとどう違うのか 紛争を起こしやすい国家同士の結合がいかに難しいか、それを乗り越えるＥＵがどれほど大きな影響力をもつのかを予感させる。